

所見

議会への報告とHPでの公表をお願いします。

まず、今回の事件の報告書を作るのに関わった教育委員会の方、調査員の方にお礼を申し上げます。

また、学校とのパイプ役になってくださった教頭先生にも厚くお礼申し上げます。

そして、尽力した妻にはねぎらいの言葉を全力で贈りたいです。

報告書を手渡された時の説明で非常に不審に思った事があります。加害児童の言い分を聞いたまでは良いですが被害者側にその確認をとっていないのはおかしいのではないのでしょうか。報告書を出された時に初めて聞く事柄がいくつもありました。ずさんで手抜きであり、今回の事件では年度もまたいだ松本市いじめ問題対策調査委員会は手っ取り早くお茶を濁したいのでなかろうかと。

被害者本人への心身の負担を考えると再調査を求めていると思いますが、その確認をした上で再判断するべきではないのか。ここにそれを要望します。

今回の事件の調査書に対する所見は、全体に加害者児童とその家族への忖度がにじみ出るように感じられる事です。対して被害者児童である我が子には実にあっさりとした調査内容であります。そして、事件発覚より求めていた、いじめ防止対策推進法に則って対応して欲しいという要求は最後まで無視されました。

今回の事件は、そもそも口で謝っても酷い事を繰り返す加害児童に問題があります。加害児童は、謝れば許される、口先で謝れば良いからまた暴力振るえるという認識があるのではないのでしょうか？

そういった本質をきちんと見極められず、問題が見えた時の担任の初動に問題があったのでしょうか、一番は問題が大きくなった時の校長の対応の浅はかさであることは調査書にも記されています。被害児童が学校へ来ることへの配慮を手抜きして、加害者を守る言動に終始した事には残念としか言葉が出てきません。そして校長自ら「学校が責任を持って加害児童の人格を変えます。」と言い切っていましたがその後の報告は一切ありません。そういった言動があった事をここで加えておきます。

また調査員については、被害者である子どもとの面談ではロクな話をしませんでした。事件の核心について触れる事はなく面談が終了し、私が口を挟んだことで初めて仕切り直されました。素人かと思いましたが、これは被害者本人からの聞き取りをできるだけ無くし、教育委員会、第三者委員会の都合よい報告書を作成するためのせせこましい手段だったのが報告書に目を通すことで理解できました。「(子どもが)話さないから」と言ってましたが、聞き出す技術も無ければむしろ避けていたという事でしょう。

そして病院で診断出された PTSD についても、報告書では P.20 に記されている「因果関係が認められない」との事ではありますが、明らかにイジメが原因で教室に入れなかったのに、学校に行こうとする努力をした被害者に対し、重箱の隅を突き針小棒大に判断した失礼極まりない、今回の事件を軽薄に済まそうとする姿が見えました。

こんなもので世の学校生活が改善されるとは到底思えないです。

以上。

